

新未来ビジョン・フォーラム第3回情報交換会（要旨）

日 時：令和5年5月30日（火）10:00～12:00

場 所：オンライン開催

議事：

1. 開会
2. 吉田フェローによる発表
3. 意見交換
4. 閉会

吉田フェローから、未来創造のアプローチ（Future CSV（Creating Shared Value）アプローチ）等に関する研究成果を踏まえた発表があった。その後の意見交換の内容は概ね以下のとおりであった。

- ・居心地が良い SNS のような世界に入ってしまった場合、今までの生活の中で何らかの組織に帰属するのは違うかたちになると思うが、そのような場合の人と人との関わり方は、緩く浅くなっているのではないかと等との意見のほか、広く浅い関係と狭く深い関係を使い分ける形に二分化していくのではないかと等との意見があった。
- ・エコーチェンバーにより、異なる価値観に対する受容性が低くなるのではないかと等との意見のほか、エコーチェンバーによって自分に自信がつくと、特に若い人たちにおいては、異なる価値観に対する受容性が高まる傾向がある等との意見があった。
- ・エコーチェンバーやフィルターバブルは、情報化社会の負の側面として捉えられることが多いと思うが、逆に、特に若年層では生活の満足度の向上や充実に繋がるなどポジティブに機能する面があるとの見方については非常に新鮮な示唆である等との意見があった。
- ・基盤とするデータソース自体が今の課題や欲求に基づくものである場合、それを活用して将来のビジョンを描くとなると、現在と未来の線引きは難しい面があるのではないかと等との意見があった。また、生活者目線で未来のビジョンを描く際に、多様な価値観が出てくる中で、それを集約してビジョンを作りあげていくのは難しい面があるのではないかと等との意見があった。
- ・Future CSV アプローチにおいては、社会的価値と生活者価値に、更に企業価値も加えた三つを重ねていくことが大事ではないかと等との意見があった。
- ・人口がシュリンクしていく中で再チャレンジ可能な社会の構築を目指すためには、人生のルートの複線化や登る山を増やすことやマーケットを東京以外にも作るといったことが重要ではないか、そしてそれはセーフティーネットとしても機能する一方で、社会経済のレジリエンスの強化にも繋がるのではないかと等との意見があった。
- ・日常生活の中で、騙されたり、失敗したりといったネガティブなことを減らしていくことは重要であるが、今後それらは AI を含むデジタル技術に委ねられるようになる可能性があり、そうなった場合には、より豊かな時間の使い方や消費の仕方ために、消費者のレベルアップが求められることにもなっていくのではないかと等との意見があった。

（以上）